

自己評価報告書(最終報告)

報告者

内田 香奈子

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

科研費を申請し、外部資金を獲得することは教員として非常に重要なことであると認識している。しかし、現在携わる概算要求プロジェクトと平行して科研費研究を実施することは、大変難しい状況である。また、私が考える科研費申請時のテーマと、概算要求プロジェクトにおけるテーマに重複する部分多くもある。よって、プロジェクトを推進することでその代替とした。

2. 点検・評価

本年度は、科研費申請に代わり、概算要求プロジェクトの実施に邁進することで、その代替とした。(なお、申請時期に科研費申請を試みたが、プロジェクトのスケジュールを鑑みると大変難しい状況であったため、断念した)。また、科研基盤研究(C)「情動とインプリシット感情への高次心的特性の統合化による予防教育プログラムの開発」の研究分担者として、研究実施に携わった。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

現在、専門家会議や学会などにおいて、当センターでの教育実践を知っていただく機会を得ている。その中で、予防教育科学の理論的背景を学べる場はどこなのかという声を耳にする。予防教育に関する授業を開講しているのは学部、大学院ともに本学のみである。この特色を強調すること、ならびに学内での授業や学外での予防教育実践活動が、最終的には学生獲得につながり、かつ私ができる取り組みであると考えている。

2. 点検・評価

昨年度以上に予防教育実践活動を推進し、多くの方に本学へ興味関心を持っていただくことが、最終的に学生獲得につながり、かつ私ができる取り組みであると考えた。そこで、県下複数の小学校、学会や専門家会議、そして県内外から多くの視察をお迎えした際、予防教育に関する授業を開講しているのは学部、大学院ともに本学のみであるという特色や、本学における充実した教育内容についてお伝えした。また、センターではHPを充実させ、その活動を広く伝えるようにつとめている。その結果、HPへのアクセス数についても急激に増加していることから、本学の良さを広くお伝えすることに繋がっているのではないかと考える。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

昨年度と同様に、プログラム開発に携わるアルバイト学生に対しては、教材開発ならびに実施へ積極的に参加を促し、将来の教育者を育成する好機を増やしたい。また、本年度より予防教育に関する学部での授業が開講される。そこで、昨年より開講した大学院での授業と同様に、学部生がどのようなニーズを持っているのかを探り、授業などに反映させたい。また、すべての支援を通じ、社会において必要となる礼儀作法等の指導を行いたい。

2. 点検・評価

本年度もプログラム開発に携わるアルバイト学生に対し、学内外での活動へ積極的に参加をさせた。具体的には、県下で実施されている予防教育での実践活動や、10月に開催された国際専門家会議へ参加の機会を設けた。その際、こちらから教材作成方法の細部を指示するばかりではなく、どのようにすればより良い教材が子どもたちに提供できるのかを考えさせ、プログラム開発に携わっている意識を高めることで、積極性や創造性を育てるようにつとめた。また、学部、大学院での授業を通じて学生のニーズを探り、授業の改善につとめた。また、すべての支援を通じ、社会において必要となる礼儀作法等の指導を行った。

II-2. 研究

1. 目標・計画

今年度は昨年度と同様に、予防教育の構築にかかわる基礎研究や、実践成果について、国内外の学会において発表を行う予定である。また、国内の学会では予防教育に関するワークショップに参加予定である。また、予防教育の教育効果や構築にかかわる基礎研究などについて論文にまとめ、公表を試みたい。

2. 点検・評価

今年度は国際学会で発表予定であったが、教育・文化フォーラムでの発表日程と重なったため、その発表を断念した。国内の学会では11月の日本教育心理学会のワークショップにおいて、司会を行った。また、同学会において予防教育の教育成果についてポスター発表を行った。いずれも多くの先生方と研究内容について意見交換をすることが出来た。論文については、基礎研究論文が1本採択された。また、予防教育に関する紀要論文を1本執筆した。次席以下の論文についても数点公開された。書籍は、分担執筆を行った書籍「世界の学校予防教育」が3月に公開された。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

昨年度は、本学の第2期中期目標の中核の1つである、概算要求事業に邁進し、学校教育に寄与することで、大学への評価向上の点から、本学の運営に貢献する方向を探った。その結果、附属小・中学校において実践した予防教育プログラムについて、科学的な一定の効果をあげることに成功した。また、県内小学校においても同様の成果を得た。本年度は、このような成果を県内小・中学校で広域実施し、その教育・研究成果を流布することで、さらなる大学の評価向上に寄与できればと考えている。

2. 点検・評価

本年度も、本学の第2期中期目標の中核の1つである概算要求事業に邁進することで、本学の運営に貢献する方向を探った。その結果、県内外の教育委員会、先生方、ならびに県外の県議会議員の方々など、多くの方に視察をいただき、本学の特色をお伝えすることが出来た。また、教育についても県下複数の小学校において実践した予防教育プログラムについて、科学的な一定の効果をあげることに成功した。以上のような活動を通じ、本学の評価向上に寄与できたのではないかと考える。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

附属中学校において、概算要求事業に関わる予防教育プログラムを推進し、その教育内容の開発と実施を通して連携を行う予定である。また、県内複数の小学校においても同様の活動を行う予定である。国際交流については、センター主催の国際会議や国外での学会を通じて、海外の研究者と交流する予定である。

2. 点検・評価

附属中学校において、概算要求事業に関わる予防教育プログラムを推進し、その教育内容の開発と実施を通して連携を行った。また、県下小学校との連携や、県外を通じ、社会との連携を積極的に行った。国際交流については、センター主催の国際会議において、海外の研究者と交流を行った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)